

# 1 漢字の読み

組	
番号	
氏名	

1

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

- ① 機械を**駆使**する ( ) くし  
**【意】**「**駆使**」自分の思い通りに使うこと。  
 ② のどを**潤**す ( ) うるお

- ③ 献身的な**介護** ( ) けんしん

- ④ 面影が似ている ( ) おもかげ

- ⑤ 権利を**奪**う ( ) うば

- ⑥ 森の中に**潜**む ( ) ひそ  
**【注】**「**潜**(もぐ)る」という読みもある。

- ⑦ 出発を**控**える ( ) ひか

- ⑧ 体を**酷使**する ( ) こくし

- ⑨ 滞りなく終わる ( ) とどこお  
**【注】**「とどこうる」と間違えないようにしよう。

- ⑩ 秘密を**漏**らす ( ) も

2

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

- ① 瀬戸**際**に立つ ( ) せとぎわ

- ② 感情を**抑**える ( ) おさ

3

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

③ 牛の乳を搾る (しぼ)

④ 旗を掲げる (かか)

⑤ 原野を開墾する (かいこん)

⑥ 信用が失墜する (しっつい)

⑦ 市販の商品 (しはん)

⑧ 参加を要請する (ようせい)

⑨ 薬を一錠飲む (じょう)

⑩ 証言を拒む (こば)

① 処分を棚上げる (たな)

② 肩の荷が下りる (かた)

③ 穏やかな天気 (おだ)

④ 肌寒い季節 (はだ)

⑤ 水源の枯渇 (こかつ)

⑥ 敷居が高い (しきい)

⑦ 注意力が散漫だ (さんまん)

⑧ 子供たちを褒める (ほ)

⑨ 塗料を塗る (ぬ)

⑩ 過ちを悔いる (く)

【意】かわききって水がなくなること。

# 1 漢字の読み

組			
番号			
氏名			

1

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

- ① 大きな声で挨拶を**交**わす ( あいさつ )
- ② 大自然に畏敬の念を抱く ( いけい )
- ③ 語彙を豊富にした**い** ( ごい )
- ④ 津々浦々に響き渡る ( つつうらうら )
- ⑤ 岡山県に向かう ( おかやまけん )
- ⑥ 目印は赤い瓦屋根の家です ( かわらやね )
- ⑦ 転倒して顎の骨を痛めた ( あご )
- ⑧ 大きな鎌で稲を刈り取る ( かま )
- ⑨ 僅差で青組の優勝となった  
**意**ほんのちよつとの差。 ( きんさ )
- ⑩ 竹を加工して串を作る ( くし )
- ⑪ 西欧の芸術への憧憬  
**注**慣用読みとして「どうけい」と読むことがある。 ( しょうけい )
- ⑫ 桁数をそろえる ( けたすう )
- ⑬ 戯曲の梗概を話す  
**意**小説物語のあらすじ。 ( こうがい )
- ⑭ 彼の言動は傲慢だ ( ごうまん )
- ⑮ 痕跡は残っていない ( こんせき )

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

- ① 彼に嫉妬してしまう ( しっと )
- ② 羞恥心のない人だ ( しゅうちしん )
- ③ 食器を拭く ( ふ )
- ④ 祖父は腎臓の病に倒れた ( じんぞう )
- ⑤ 覚醒剤の密輸を取り締まる ( かくせいざい )
- ⑥ リンパ腺が腫れてきている ( せん )
- ⑦ 彼は謙遜しているようだ ( けんそん )
- ⑧ 明日は新国王の戴冠式が行われる ( たいかんしき )
- ⑨ 最後まで諦めない ( あきら )
- ⑩ 瞳をゆっくり閉じなさい ( ひとみ )
- ⑪ 昨日の練習試合で膝を打撲した ( ひぎ )
- ⑫ 叔父の訃報が今朝入った ( ふほう )
- ⑬ 週末はテスト勉強三昧の二日間だった ( ぎんまい )
- ⑭ 良性の腫瘍と診断された ( しゅよう )
- ⑮ 蔵王山麓の牧場を訪れる ( さんろく )
- 【意】自分のしたいことに没頭すること。

## 2 漢字の書き

組	
番号	
氏名	

1

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

- ① 波がくだける ( 碎 )
- ② ひふの色は関係がない ( 皮膚 )
- ③ 心をゆさぶる音楽 ( 揺 )
- ④ じょうちょうなスピーチ ( 冗長 )
- ⑤ 意文章や話などが無駄に多く、長いこと。  
荷物をひもでしばる ( 縛 )
- ⑥ 体がおとろえる ( 衰 )
- ⑦ 筆のほさきに注意を払う ( 穂先 )
- ⑧ さつばつとした風景 ( 殺伐 )
- ⑨ かさ立てが倒れていた ( 傘 )
- ⑩ 労をおしむ ( 惜 )

2

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

- ① 努力をおこたる ( 怠 )
- ② こんしん会に出席する ( 懇親 )

③ おろかしい行為 ( 愚 )

④ 公園がきゅうけい場所 ( 休憩 )

⑤ 掃除をてっぺいする ( 徹底 )

⑥ ひとふさのぶどう ( 一房 )

⑦ 衣服をひょうはくする ( 漂白 )

⑧ タオルをしぼる ( 絞 )

⑨ 調「搾る」との違いを調べよう。  
てがらを立てる ( 手柄 )

⑩ 会議をぼうがいする ( 妨害 )

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

① しぼうを燃焼する ( 脂肪 )

② 迷子をさがす ( 捜 )

調「探す」との違いを調べよう。

③ びんかんに反応する ( 敏感 )

④ 友人をおどかす ( 脅 )

⑤ ほころびをつくろう ( 繕 )

⑥ 気がゆるむ ( 緩 )

⑦ 運動ぐつ ( 靴 )

⑧ 独断におちいる ( 陥 )

⑨ とくめで投書する ( 匿名 )

⑩ ごらくを楽しむ ( 娯楽 )

## 2 漢字の書き

組	
番号	
氏名	

1

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

- ① 先生にそうだんする (相談) ( )
- ② こうしきを使って面積を求める (公式) ( )
- ③ 鏡にすがたをうつす (姿) ( )
- ④ 物質が変化していくかていを調べる (過程) ( )
- ⑤ **調**「課程」との違いを調べよう。  
世界いさんを見学する (遺産) ( )
- ⑥ じしゃくを使って方位を調べる (磁石) ( )
- ⑦ 燃料をおぎなう (補) ( )
- ⑧ 空気のていこうがある (抵抗) ( )
- ⑨ 真実にせまる (迫) ( )
- ⑩ 来賓のしゅくじを聞く (祝辞) ( )
- ⑪ その場所のい度と経度を調べる (緯) ( )
- ⑫ 敵をなぐり倒した (殴) ( )
- ⑬ 大金をかせぐ (稼) ( )
- ⑭ 心のへだたり (隔) ( )
- ⑮ 勝利のかん声が球場に響く (歓) ( )

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

- ① 新しいきかくを考えた ( 企画 )
- ② 地球ぎを購入する ( 儀 )
- ③ **注** 「礼儀・会議・犠牲・義理」など、書き分けられるようにしよう。  
空気中のばいきん。 ( 菌 )
- ④ 建物がかたむく ( 傾 )
- ⑤ 子どもをむかえに行く ( 迎 )
- ⑥ **注** 二画目の書き方に注意しよう。  
写真をとる ( 撮 )
- ⑦ 今日のしつどは六十パーセントだ ( 湿度 )
- ⑧ 一人きりでさびしく感じる ( 寂 )
- ⑨ ボールを強くける ( 蹴 )
- ⑩ みんなでいっしょに出かけよう ( 一緒 )
- ⑪ 点たいししょうの位置にある図形 ( 对称 )
- ⑫ **調** 「対象」「対照」の違いを調べよう。  
お寺からかねの音が聞こえる ( 鐘 )
- ⑬ お年寄りに席をゆずりましょう ( 譲 )
- ⑭ スープがからい ( 辛 )
- ⑮ この道路はちゅうしゃ禁止だ ( 駐車 )



### 3 言葉の学習

組	
番号	
氏名	

1

次の①から⑩のそれぞれの文では、( )の中の言葉のどれが適切ですか。言葉を( )で囲みなさい。

- ① 友達の意見を聞いて自分の考えを(変えた 換えた 代えた 替えた)。
- ② これは努力の結果生まれた彼の(得心 良心 感心 会心)の作です。  
意うまくいって、心から満足すること
- ③ 練習がきつくて(息を殺して 音を上げて 目をかけて 水をさして)しまった。※「音(ね)を上げる」
- ④ 私は、日本人なら(だれかが だれにも だれもが だれかに)日本語を大切に思うと思う。
- ⑤ 今にも雨が降りそうです。(および たとえば さらに しかし)、今日の運動会は決行します。
- ⑥ お客様、どうぞこの洋服を(めしあがって おめしになって)うかがって おめしあがって)ください。
- ⑦ 物質が変化していく(家庭 仮定 課程 過程)を調べる。
- ⑧ 何回も話し合い、ようやく彼を(説明 説得 解説 演説)した。
- ⑨ ふと気が付くと、(無関心 無理解 無意識 無関係)のうちに校歌を口ずさんでいた。
- ⑩ 文化祭の日を首を(長くして ひねって 回して かしげて)待っている。
- ⑪ あたりは、(すこし まさか とても まるで)真夜中のように静かである。

⑫ お客様、私が荷物を（お持ちします）お待ちいただきます お持ちください  
さい お持ちになります。

⑬ 中学生を（対照対象）対称（対策）に調査する。

⑭ 旅行の準備を（密着に密接に綿密に親密に）する。

⑮ 手術が無事にすんだと聞いて、ほっと胸を（なでおろした）はった  
らした つかれた）。

⑯ 雨の心配された遠足だったが、（おそらく あいにく）さいわい  
たちまち） 好天に恵まれた。

⑰ その山は、簡単に登れると思っていた。（しかし）また つまり  
そこで） 頂上近くはきつい上り坂で、みんな無言で歩くようになった。

⑱ 担任の先生が私の家に（来れます 参上します 参ります  
いらっしゃいます）。

【注】尊敬語の使い方を確認すること。

2 次の①～③の（ ）にあてはまる言葉の組み合わせを  の中

から選んで、その記号を「」に書き入れなさい。

① 大川さんはまじめなので、（ ）来る（ ）だ。 「キ」

② わたしはどんなことでも（ ）最後まであきらめ（ ）。「イ」

③ 小林さんが休んだのは、（ ）かぜのせい（ ）。「オ」

ア	まさか	くまい	イ	けっして	くない	ウ	もし	くなら	
エ	たとえ	くでも	オ	たぶん	くだろ	カ	ぜ	ひ	くたい
キ	きつ	くはず	ク	まる	くよう				

### 3 言葉の学習

組	
番号	
氏名	

1

森さんは、「似た意味の言葉調べ」の学習で、移動の意味を表す「走行する」と「走る」という言葉を比べ、メモに取りました。  
のをおぼの1〜4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

の中に入るものとして、ふさわしいも

【メモの一部】

「走行する」と「走る」を比べて

● 分かったこと

◆ 自動車が主語のとき、「走行する」も「走る」も使う。

(例) 「自動車が、走行する。」(○)

(例) 「自動車が、走る。」(○)

◆ 人間が主語のとき、「走行する」は使わないが、「走る」は使う。

(例) 「山下さんが、運動会のリレーで走行する。」(×)

(例) 「山下さんが、運動会のリレーで走る。」(○)

● まとめ

■ 「走行する」は、「走る」と比べると

と考えた。

■ 「走行する」は、「走る」と比べると、

- 1 使い方の範囲が完全に同じで、いつも置きかえて使える
- 2 使い方の範囲が広く、人間が走る場合にも使える
- 3 使い方の範囲が重ならないので、それぞれ別々に使う
- 4 使い方の範囲がせまく、人間が走る場合には使えない

と考えた。

平成20年度  
全国学力・学習状況調査  
小学校6年国語問題より  
《正答率》  
県 51.7%  
全国 53.1%

解	答
	4

2 次の①から③までの文中の傍線部のカタカナを漢字に直し、楷書でいいねいに書きなさい。

- ① 世界イサンを見学する。 (遺産)
- ② ジシヤクを使って方位を調べる。 (磁石)
- ③ 燃料をオギナう。 (補)

3 次の①の文を、意味は変えずに「私」を主語にした文に書き換えると、「祖母が」、「頼んだ」はそれぞれどのようになりますか。②の文のAとBに当てはまる言葉を書きなさい。

- ① 祖母が私に庭の草取りを頼んだ。
  - ② 私は祖母 (A) 庭の草取りを (B) (に) (頼まれた) ( )
- ※頼まれてしてあげたも可

4 次のア・イの文では、( ) 中の1から4までのうち、どれが最も適切ですか。それぞれ一つずつ選び、番号に○を付けなさい。

- ア 会議で決を ( 1 執る 2 撮る 3 捕る 4 採る )
- イ 参観日には父が学校へ来ると ( 1 申して 2 おっしゃって 3 話されて 4 申されて ) おりました。

平成21年度全国学力・学習状況調査  
中学校3年国語問題より

《正答率》(%)

	1①	1②	1③	2
県	72.3	80.6	51.7	82.4
全国	75.2	84.0	53.7	82.6

平成22年度  
全国学力・学習状況調査  
中学校3年国語問題より

《正答率》(%)

	ア	イ
県	42.7	52.3
全国	43.2	52.8



3 次の形容動詞の活用表の空欄の ( ) に言葉を書き入れなさい。

種類		基本形	活用形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
きれいだ	きれいで	きれいで	きれいで	きれいで	きれいで	きれいで	きれいで	きれいで	きれいで
きれいです	きれいで	きれいで	きれいで	きれいで	きれいで	きれいで	きれいで	きれいで	きれいで

注 「形容詞」と「形容動詞」は、活用語尾変化そのものを覚えておくことと便利である。

「形容詞」は「かる／かつ・く・う／い・い・けれ・〇」と暗記しよう。「形容動詞」は「だろ／だつ・で・に／だ／な／なら／〇」「でしよ／でし／です／です」と暗記しよう。そして、文中に活用して隠れている「形容詞」や「形容動詞」を見つけられるようになるう。

4 次の名詞について説明している文の [ ] に当てはまる語句を後の語群から選んで書きましよう。

自立語

で、活用せず、「が」「は」「も」「こそ」「の」などが続いて、

主語

になることのできる [ ] を [ ] といひます。

単語

を

体言

といひます。

この体言は、品詞名でいうと [ ] といひます。

(語群)

単語 名詞 主語 体言 用言 自立語

5 次の表の中の ①～④ に当てはまる語句を、後の語群Aから選び記号で答えなさい。またその説明にあてはまる名詞を語群Bから選び、書き入れなさい。

名詞の種類	説明	語例
代名詞	① (エ)	(わたし) あなた
固有名詞	② (ウ)	京都 (仙台) (インド洋)
数詞	③ (ア)	百年 (二度) (一億人)
形式名詞	④ (イ)	努力すること (失敗するわけがない)
普通名詞	一般の名詞。大部分をしめる。	犬 猫 (出会い) (別れ)

(語群A)  
ア ものの数や順序を表す。中に数字を含む。  
イ 必ず修飾語と結び付いて用いられる。  
ウ 特定の人や物に対して付けられた名前。  
エ 人や物事を指し示すのに用いられる。

(語群B)  
わたし 仙台 インド洋  
失敗するわけがない 出会い  
別れ 二度 だれ



# 5 文法2 副詞・連体詞・助詞の用法

組	番号	氏名
---	----	----

① 次の各文の——線部の中で、副詞はどちらか。( ) に○印を書きなさい。また、副詞でないほうは、品詞名を書きなさい。

① 先生が、すぐに集まるようにおっしゃった。  
先生が、静かにするようにおっしゃった。  
( ) 形容動詞 ( )

② 次回は、大輔が一人でお使いに行くそうだ。  
うん、次はそうするよと大輔は言った。  
( 助動詞の一部 ) ( )

② 次の各文の——線部の中で、連体詞はどちらか。( ) に○印を書きなさい。また、連体詞でないほうは、品詞名を書きなさい。

① 仙台市の北側には、泉ヶ岳という山がある。  
ある日、友人と泉ヶ岳にドライブに出かけた。  
( ) 動詞 ( )

② 「地図を見てください、これが泉ヶ岳です。」  
「この山がそうですか。市内から近いですね。」  
( ) 名詞 ( )

③ 次の表のそれぞれの助詞のはたらきを、ア～エの中から選んで記号で書きなさい。

助詞の種類	語例	はたらき
格助詞	が・の・を・に・と・へ・から・より・で・や	ア
接続助詞	て(で)・と・ば・ものなら・から・ので・が・けれど(けれども)・のに・ても(でも)・ものの・し・たり(だり)・ながら・つつ・なり 等	イ
副助詞	は・も・こそ・さえ・すら・でも・だって・まで・だけ・ばかり・のみ・しか・きり・ほど・くらい(ぐらい)・など・とか・やら・なり・ずつ・か 等	ウ
終助詞	か・かい・かしら・の・な(なあ)・こと・ね(ねえ)・よ・さ・せ・ぞ・や・わ・とも・な・ものか 等	エ

- ア 主として名詞の後に続いて、後に続く言葉との関係を示す。
- イ 活用する語(用言・助動詞)の後に続いて、前後をいろいろな関係で接続する。
- ウ いろいろな語について、その後には様々な意味を添<sup>そ</sup>える。
- エ 主として文の終わりについて、話し手・書き手の気持ち<sup>そ</sup>を表す。



組			
番号			
氏名			

## 5 文法2 副詞・連体詞・助詞の用法

1 主として用言を修飾する副詞について、次の各問題に答えなさい。

(1) 動作の様子を表す副詞を、状態の副詞といえます。線部の副詞は述語にどんな意味を与えていますか。後から選んで記号で答えなさい。

- |   |                         |     |
|---|-------------------------|-----|
| ① | 祖父はご飯を <u>ゆっくり</u> 食べる。 | 「オ」 |
| ② | 海が <u>きらきら</u> と光っている。  | 「ウ」 |
| ③ | いつもこの道であの人に <u>会う</u> 。 | 「ア」 |
| ④ | 危ない、 <u>すぐに</u> 避難しなさい。 | 「エ」 |
| ⑤ | 雨が <u>ザーザー</u> 降っている。   | 「イ」 |

ア	頻度 <small>ひんど</small> を表す	イ	擬音語 <small>ぎおんご</small>	ウ	擬態語 <small>ぎたいご</small>
エ	時間関係を表す	オ	様子を表す		

(2) 状態がどのくらいかを表す副詞を、程度の副詞といえます。線部の副詞が修飾している品詞の名前を書きなさい。——線

- |   |                         |        |
|---|-------------------------|--------|
| ① | この猫は、 <u>やっぱり</u> かわいい。 | 「形容詞」  |
| ② | 大きな月が <u>ぼっかり</u> 浮かぶ。  | 「動詞」   |
| ③ | 海は <u>たいへん</u> 静かだ。     | 「形容動詞」 |
| ④ | もっと <u>ゆっくり</u> と歩こう。   | 「副詞」   |

(3) 陳述ちんじゆつの副詞は、後に続く言葉が決まっています。線部の陳述の副詞に呼応こおうするように( )の中に言葉を書きなさい。

- |   |                                |
|---|--------------------------------|
| ① | そのような話は <u>全く</u> 聞いたことが( )ない。 |
| ② | それは <u>まるで</u> 夢の( )ような時間だった。  |
| ③ | まさか <u>中止</u> にはなる( )まい。       |
| ④ | そんなことは <u>とても</u> 信じられ( )ない。   |

【注】「とても」には、陳述の副詞として用いる場合(後に打ち消しの言葉をとまなう)と、程度の副詞として用いる場合がある。

- ・ 彼がそんなことをするとはとても考えられない。(陳述の副詞)
- ・ 彼はとても大きい犬を見た。(程度の副詞)



## 6 説明的文章1 要点をとらえる

組	
番号	
氏名	

1 次の文章を読んで問いに答えなさい。

現在、インターネットというメディアがものすごい速さで普及しつつあります。そのスピードは、たったの四年間で世界における利用者数が五千万人にも上るほどです。利用者数が五千万人に達するのにラジオは三十八年、テレビで十三年かかっているというのだから、インターネットの普及の速さはまさに驚異的です。

そんな多くの人々を強く引きつけたインターネットには、三つの大きな長があります。

一つは、簡単に、しかも一瞬で情報を得たり送ったりできるとい（ a ） 。 もう一つは今までのメディアとは違い、個人が世界に向けて情報を発信でき、また個人が世界から簡単に情報を手で取るとい（ b ） 。 そして最大の長は、情報発信源または情報受信者が個人として特定できないという、（ c ） です。現在、この匿名性がインターネットの大きな魅力となると同時に、個人の個性に関する大きな問題を生んでいるのです。

仙台市中学校教育研究会国語部会編「こだま」49号所収の生徒作品から一部抜粋

① 本文中の（ ） に当てはまる適切な言葉を次の中から選んで答えなさい。

匿名性	即効性	双方向性	匿名性
a	即効性	b	c

② この文章で筆者が言いたいことを述べている一文を探し、はじめと終わりの五字ずつを書きなさい。（句読点を含む）

現	在	、	こ	の	く	る	の	で	す	。
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

## 6 説明的文章1 要点をとらえる

組	
番号	
氏名	

1 次の文章を読んで問いに答えなさい。

今、科学がぐんぐん進歩している。そんな中で、人間を助けるためのロボットが数多く研究・開発されている。

( a )、茨城県の筑波大学が開発したパワーアシストロボット H A L である。H A L は、人が直接背負うロボットスーツで、装着することで普段の何倍もの力が出せる。そのため、重い荷物を運んだり、人を抱えたりすることの助けとなり、介護をする際などにとっても役立つ。

そのほかにも人を助けるためのロボットが、いくつも開発されている。適応義手(ロボットハンド)は、手をなくしてしまった人のために作られたもので、筋肉が収縮するときが発生する「筋電」をセンサーで読み取り、圧力センサーが物を触った感触を皮膚に伝えることができる。そのため、本当に触ったような感じがするという。現在はコンピュータにつながっているため、付けたまま動くことはできない。そうだが、義手に取り付けられる組み込み式の小型コンピュータの開発が進んでいるようだ。早稲田大学では、二足歩行型の車いすが開発されており、足の裏のセンサーにより転ぶことはないという。実際に使われるのも近い将来といわれている。

医療の世界でもロボットは使われるようになり、立命館大学では、マイクロ体内ロボットというものが研究されている。大きさは縦三センチメートル、横一・五センチメートルと超小型で、現在はマイクロカメラと照明が付いているだけだが、最終的には患部を見付けるセンサーや薬を入れるタンクも付くという。移動方法は、先ずメスで患者の体に小さな穴を開けてロボットを中に入れた後、患者の周りにコインを設置し、電流を流すことで磁場を発生させ、磁石の引っ張る力でロボットを動かすというものだ。そうすることで本体にモーターや特殊な動力を積む必要がなくなり、小型化が可能になったという。動物実験はすでに行われていて、二〇一〇年には無線タイプのものも完成するそうだ。

また、戦争や災害現場などにもロボットは使用されていて、実際に戦地で地雷や爆弾を処理したり、災害時に危険な場所を探索し、状況

を知らせたり人を探したりできるといふ。  
 このように見ていくと、ロボットは今やなくてはならない存在にな  
 ってきているといえるだろう。

仙台市中学校教育研究会国語部会編「こだま」52号所収の生徒作品から一部抜粋

① 本文中の（ a ）に当てはまる適切な言葉を答えなさい。

例えば

② 本文で紹介されている各種のロボットが研究・開発されているのは  
 何のためですか。簡潔に説明しなさい。

人間を助けるため。

③ この文章で筆者が訴えたいことはどんなことですか。「人間」とい  
 う言葉を必ず使って、四十字以内で答えなさい。

（例）

人	な	と
間	ら	。
に	な	
と	い	
っ	存	
て	在	
、	に	
ロ	な	
ボ	っ	
ッ	て	
ト	き	
は	て	
今	い	
や	る	
な	と	
く	い	
て	う	
は	こ	

# 7 随筆 自分の考えをもつ

組		氏名	
番号			

次の文章を読んで問いに答えなさい。

私は中学を卒業するとすぐ、遠洋のマグロ船に乗りました。いわゆる見習いです。遠洋漁業ですから一航海が一年を超えることもあります。家に帰れるのは盆か正月ぐらいでした。何もない田舎でしたが、正月に行われる「獅子風流地区回り」が幼い頃から楽しみでした。これは、大人たちが太鼓や笛を鳴らし、獅子舞いをしながら浜の家を一軒一軒回る伝統行事です。この時ばかりは、子どもたちも夜通し起きていてよく、近所の家が上がってはジュースやお菓子をもらう。これがないとお正月が来ないような気がしたものです。

二十歳ぐらいの時のことです。正月に帰省したのですが、今年から地区回りをしないことになったと聞いて、大変 **A** しました。大人たちが寄り合いでそう決めたとのことでした。ふるさとの楽しい思い出がなくなってしまふ、こんなことってあるのだらうか、これでいいのだらうか。その年のお正月は、それはもう、寂しいものでした。

仕事先にもどってからも、そのことは頭から離れませんでした。私はここでこんなことをしていいのだろうか。自分が感じたあの楽しいふるさとの思い出、伝統をどぎれさせてもいいのか。そう思い始めるといてもたってもいられず、船を降り、**B** 地元に戻ることにしたのです。家業の養殖業を継いだのですが、仲間を集めて、保存会をつくり「獅子風流」の復活を働きかけました。もともとは、私のように十代の若者がふるさとを離れ、獅子や笛や太鼓の人手が足りなくなったことが、休止の原因でしたから責任を感じたわけです。

こうして、数人の保存会のメンバーとそれから十何年間が続けました。

しかし、五人や六人で保存しようと思っても、後に続くものがいなければ、**C** また同じことになってしまふ。そう考えた私は、地元の中学校に働きかけ、中学生による伝統芸能「獅子風流」を始めたのです。幸いにも、中学校の先生方や、地元の皆さんからの協力に支えられ、順調に活動が行われるようになりました。翌年には、地元の小学校でも「獅子風流」がスタートしました。小学校での活動が始まったのは、平成元年のことです。

今では、小学校や、中学校で「獅子風流」を学んだ子どもたちが、地元の各浜で正月に行われる獅子風流に参加して、獅子の中に入って大人顔負けの舞いを披露したり、すばらしい笛の音色や、バチさばきを見せてくれるようになりました。数年前からは、石巻市のかき祭りや、小学生が「獅子風流」を披露していますし、牡蛎剥き作業が始まると、各浜を回って大人たちを励ましています。

**D** 伝統文化を継承していくことは、口で言うほど楽なものではありません。大人が忍耐強く、子どもたちに教えていかなければ、あつというまにすたれてしまふと思いません。

① 文章中の A に当てはまる最も適切な言葉を、次のア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア うきうき                      イ しよんぼり  
ウ がっかり                      エ びくびく  
「                                      ウ                                      」

② 文章中に「B 地元

- ① 筆者は、なぜそうしたのか。その考えが分かる部分を抜き出さなさい。  
自分が感じたあの楽しいふるさとの思い出、伝統をどぎれさせてもいいのか。

② また、地元に戻って何をしましたか。三十字程度で書きなさい。

仲間を集って保存会をつくり「獅子風流」の復活をはたらきかけた。

③ 文章中の「C また同じこと

とはどんなことですか。二十字から三十字で書きなさい。  
後を継ぐものがいなくなり、伝統が途切れてしまう。

④ 「D 伝統文化を継承していく

① 「D 伝統文化を継承していく」ということ」について、筆者はなにが必要だと述べていますか。文章中の表現を用いて二十字程度で書きなさい。  
大人が忍耐強く、子どもたちに教えていくこと。

② また、筆者の考えについて、あなたが感じたことを簡潔に書きなさい。

(例) 楽しかった伝統芸能を復活させ、地域や学校にはたらきかけて守っていくことは、すごいことだ。

# 8 詩1 いろいろな表現技法を知る

組	
番号	
氏名	

① 次の①～⑥の——部の表現に用いられている技法を、語群から選んで答えなさい。(複数ある場合もあります。)

① キーンコーンカーンコーン  
ふう テスト終了

① 擬音語

② 石ころみたいな僕と  
夕焼けみたいな君と  
共通点があるわけじゃないけど  
ないわけでもない

② 直喩、対句

③ あした  
台所から  
料理をつくる音が聞こえなくなったら

③ 省略

④ 夏の階段を一步ずつ  
かけ上がっていこう  
自分の力で 確実に

④ 倒置法

⑤ ひさしぶりに  
ブランコにのりました  
風は わたしに  
何かいっているようでした

⑤ 擬人法

⑥ シャープペンを再び手に取り  
うるさい雑音に感謝  
うるさい雑音に感謝  
うるさい雑音に感謝

⑥ 反復、体言止め

語群	直喩 いん ちよく ゆ	省略	擬人法	反復	擬音語
隠喩	体言止め	倒置法	対句	擬態語	



# 8 詩1 いろいろな表現技法を知る

組	
番号	
氏名	

1 次の①～⑥の――部の表現に用いられている技法を、語群から選んで答えなさい。(複数ある場合もあります。)

① 来年の夏

新しい仲間と どこかのグラウンドで  
新しい仲間と どこかのグラウンドで  
ボールを追いかけている自分に出会うため

①

反復

② 私はこれからも知っていく

認めたくないことも嬉しいことも すべて

②

倒置法

③ 私は作文が苦手です

何度もつまり 息切れし  
でも書き終えたときの達成感  
まるで長距離走の  
ゴールみたいに気持ちがいいです

③

直喩

④ 初夏のさわやかな野原に

今日も そよそよと 風は吹く

④

擬態語

⑤ おし暑い部屋の中

窓を開けると  
蝉が木と話しているのが聞こえる  
木の葉が風と遊んでいるが見える

⑤

擬人法

⑥ 半分にわった真っ赤なすいか

真夏のあつい太陽の味

⑥

隠喩、体言止め

語群

直喩 ちよくゆ いんゆ	省略	擬人法	反復	擬音語
隠喩	体言止め	倒置法	対句	擬態語

# 9 近代の短歌・短歌を読む

組	
番号	
氏名	

1

次の短歌を読んで、問いに答えなさい。

A みちのくの母のいのちを一目見ん一目みんとぞただにいそげる 斎藤茂吉

B のど赤き玄鳥つばくらめふたつ屋梁はりにみて足乳根たらちねの母は死にたまふなり 斎藤茂吉

C 小百合さく小草がなかに君まてば野末にほひて虹あらはれぬ 与謝野晶子

D ふるさとの訛なつかし  
停車場の人ごみの中に  
そを聴きにゆく 石川啄木

E 白鳥はかなしからずや空の青海のあをにも染まずただよふ 若山牧水

F 幾山河越えさり行かば寂しさのはてなむ国ぞ今日も旅ゆく 若山牧水

① Aの短歌の「母のいのちを一目見ん」とは、どんな意味ですか。適切なものを次から一つ選び、記号に○を書きなさい。

- ア 母が大切にしてきたものを一目見ておきたい。
- イ 母が生きている間に、あと一回しか会えない。
- ウ 母が元気なうちに、もう一度会いたかった。
- エ 母が生きているうちに、一目でも会いたい。

② Bの短歌の「母は死にたまふなり」とありますが、死んでいく母と対照的に描かれているものを、歌の中から書き出しなさい。

のど赤き玄鳥

③ Cの短歌の「にほひて」を現代仮名遣いに直して書きなさい。

において

④ Cの短歌の「にほひて」の言葉の意味を書きなさい。

例

輝くように美しく色づいて

⑤ Dの短歌に「そを聴きにゆく」とありますが、どこに行くのですか。歌の中の言葉で書きなさい。

駐車場の人ごみの中

注 「そ」は「それ」という意味。

⑥ Dの短歌に「そを聴きにゆく」とありますが、何を聴きに行くのですか。歌の中の言葉で書きなさい。

ふるさとの訛

⑦ Eの歌に込められた作者の心情として、適切なものを次から一つ選び、記号を書きなさい。

ア 何ものにもとらわれず、自由に生きていることへの喜び。

イ 自然と一体化することによって得られる安心感。

ウ 空の青さや海の青さにも劣らないほどの深い悲しみ。

エ ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼

# 9 近代の短歌・短歌を読む

組	
番号	
氏名	

次のA・Bの短歌を読んで、問いに答えなさい。

1

<p>A 秋暮れて今年もさむし<sup>こご</sup>午后はやく日かげる庭の白菊の光り</p> <p>B 街灯の光とどかぬ<sup>おちば</sup>舗道にて落葉あかるく月照りにけり</p>	<p>木下<sup>きのした</sup> 利弦<sup>りげん</sup></p> <p>佐藤<sup>さとう</sup> 佐太郎<sup>さたろう</sup></p>
--	--

(注) 舗道は表面を平らに舗装した道路。

① Aの短歌について、言葉のつながりや意味のまとまりから切れ目を付けるとしたらどこになりますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。

- 1 秋暮れて／今年もさむし<sup>こご</sup>午后はやく日かげる庭の白菊の光り
- 2 秋暮れて今年もさむし<sup>こご</sup>／午后はやく日かげる庭の白菊の光り
- 3 秋暮れて今年もさむし<sup>こご</sup>午後はやく日かげる庭の白菊の光り
- 4 秋暮れて今年もさむし<sup>こご</sup>午後はやく日かげる庭の白菊の光り

解答  
2

② Bの短歌について書かれたものとして最も適切なものを、1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 街灯の光も月の光も届かない舗道で、落ち葉が明るく光っているように見えて不思議に思ったことを詠んでいる。
- 2 街灯の光と月の光との両方に照らし出された舗道を歩き、ひとときわ輝く落ち葉を見つけて驚いたことを詠んでいる。
- 3 街灯の光が届かない舗道なのに、落ち葉が光っているのを見て月の明るさに心を動かされたことを詠んでいる。
- 4 街灯の光で照らされた落ち葉があまりに明るくて、月が照っていることにも気付かなかったことを詠んでいる。

解答  
3

平成21年度  
全国学力・学習状況調査  
中学校3年国語問題より

《正答率》(%)

	一	二
県	26.3	80.0
全国	28.9	77.9

# 10 古文1 係り結びと反語

組
番号
氏名

1 次は、「竹取物語」の冒頭の部分です。これを読んで問いに答えなさい。

今は昔、竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつ  
つよろづのことに使ひ（a）。名をばさぬきの造となむいひける。  
その竹の中にもと光る竹なむ一筋あり（b）。あやしがりて寄り  
て見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いと  
うつくしうてゐたり。

（1）「さぬきの造となむいひける」では、「なむ」という助詞に呼応して文末が「ける」と変化しています。

① 「なむ」のような助詞をなんといいいますか。  
注他に「ぞ」「こそ」などもある。

係りの助詞

② ①の助詞と文末の結び方との関係をなんといいいますか。

係り結び

（2）文章中の（a）、（b）に入る適切な言葉を次の語群の中から一つ選び答えなさい。

なり	なる
けり	ける

注（1）がヒントになる。

（a）	けり
（b）	ける

次は「論語」の一節です。文章中の——部に共通する表現上の技法を答えなさい。

子曰はく、「学びて時にこれを習ふ、また説よみばしからずや。朋遠とも えんほう方より来たるあり、また樂ひとしからずや。人知らずして慍うらみず、また君子くんしならずや。」と。

反語（表現）

**注**この「くや。」という表現技法は、「くだろうか、いやくない。」という意味を表す表現技法で、反語という。「樂しからずや。」は「楽しくないだろうか、いや楽しくないわけではない。」という意味になる。反語は、口語では次の例のように「くか。」という言い方を**する**。

（例）彼のような誠実な人が人をだましたりなどするだろうか。

（疑問の意味ではなく、言外に「いや、彼は人をだましたりはしない」という意味が含まれている表現技法）

# 10 古文1 係り結びと反語

組	
番号	
氏名	

1 次のそれぞれの和歌の中で使われている係りの助詞に  
 を引きなさい。また、それに呼応している結びの言葉に  
 を引きなさい。

道のべに清水流るる柳陰しばしとてこそ立ちとまりつれ  
 山里は冬ぞさびしさまさりける人目も草もかれぬと思へば

2 次は「徒然草」の一節です。これを読んで問いに答えなさい。

注1 城陸奥守泰盛は、注2 双なき馬乗りけり。馬をひきいださせけるに、  
 足を揃へて、しきみをゆらりと越ゆるをみて、「これは勇める馬なり。」  
 とて、鞍をおきかへさせけり。また足をのべて、しきみにけあてぬれ  
 ば、「これは鈍くしてあやまちあるべし。」とて乗らざりけり。道を知らざらん人、かばかりおそれなんや。  
 (「第百八十五段」より)

注1 城陸奥守泰盛 II 「秋田城の介」である安達泰盛。  
 注2 双なき II くらべものがない。  
 注3 しきみ II しきい。

## 【現代語訳】

秋田陸奥守泰盛は、無双の馬乗りであった。馬を引き出させたところ、足を揃えて、敷居をゆらりと越えるのを見て、「これは気のはやった馬だ。」と言って、鞍を他の馬に置き換えさせた。また足を伸ばして、敷居に蹴あてると、「これは鈍くて、過ちがあるだろう。」と言って乗らなかつた。道を知らないような人が、これほどに慎もうか。

① 「道を知らざらん人、かばかりおそれなんや。」とは、どういう意味

を表していただけますか。適切なものを次から一つ選び答えなさい。

ア 道を知らないような人は、馬に乗ってはいけない。

イ 道を知らない人だからこそ、これほど慎重になるのだ。

ウ 道を知らないような人は、これほど慎重にはならない。

エ 道を知らないような人は、慎重でなければならぬ。

**注** 「や」に着目しよう。

ウ

② 「道を知らざらん人、かばかりおそれなんや。」の意味していることを、「道を知る人は、」という書き出しに続けて書きなさい。

道を知る人は、人一倍慎重である。



# 11 漢文1 漢文の読み方・書き下し文

組	
番号	
氏名	

1 次の書き下し文を読み、例にならってそれぞれの訓読文の漢字の読む順番を答えなさい。

例 国破れて山河在り

国 1  
破 2  
山 3  
河 4  
在 5

① 江は碧にして鳥は逾よ白く

江 1  
碧 2  
鳥 3  
逾 4  
白 5

② 春眠 暁を覚えず

春 1  
眠 2  
不 3  
覚 4  
暁 5

③ 家書万金に抵る

家 1  
書 2  
抵 3  
万 4  
金 5

④ 君子は諸を己に求む

君 1  
子 2  
求 3  
諸 4  
己 5

⑤ 学びて時に之を習ふ、また説ばしからずや

学 1  
而 2  
時 3  
習 4  
之 5  
不 6  
亦 7  
説 8  
乎 9

2 書き下し文を参考に、次の漢文に返り点を付けなさい。

① 思ひて学ばざれば則ち殆しと

思 1  
而 2  
不 3  
学 4  
則 5  
殆 6

② 処処啼鳥を聞く

処 1  
処 2  
聞 3  
啼 4  
鳥 5

**注** 返り点とは

① 「レ点」(れてん) ↓下の字から先に読む記号

「知<sup>し</sup>新<sup>あたらし</sup>」(新しきを知る)

② 「一、二点」(いちにてん) ↓番号の順番に読む記号

「思<sup>フ</sup>二故郷<sup>ヲ</sup>」(故郷を思ふ)

# 11 漢文1 漢文の読み方・書き下し文

組	
番号	
氏名	

1 例にならって、次の訓読文を書き下し文に直しなさい。

例 春 眠 不 覚 曉

春眠曉を覚えぬ

① 日 照 香 炉 生 紫 煙

日は香炉を照らして紫煙生ず

② 君 子 和 而 不 同 小 人 同 而 不 和

君子は和して同ぜず、小人は同じて和せず。

注 「而」は置き字といい、読まない漢字。

③ 夜 聞 漢 軍 四 面 皆 楚 歌 項 王 乃 大 驚 曰

「漢 皆 已 得 楚 乎。是 何 楚 人 之 多 也。」

夜、漢軍の四面皆楚歌するを聞き、項王すなわち大いに驚きていはく、「漢皆すでに楚を得たるか。これ何ぞ楚人の多きや」と。

注 「乃」「曰」「之」は書き下し文にして書くときにはひらがなで書く。

④ 己 所 不 欲 勿 施 於 人

己の欲せざる所は、人に施すことなかれど。

注 「不」「勿」は書き下し文にして書くときにはひらがなで書く。「於」は置き字。

書き下し文を参考に、漢文に返り点と送り仮名を付けなさい。

① 遙かに見る瀑布の前川に掛かるを

遙カニ  
看ル  
瀑布ノ  
挂ニ  
前川ニ

② 君は川流を汲め我は薪を拾はん

君ハ  
汲メ  
川流ヲ  
我ハ  
拾ハ  
薪ヲ

③ 酔うて沙場に臥すとも君笑ふこと莫かれ

酔ウテ  
臥ニ  
沙場ニ  
君  
莫ナカレ  
笑フコト

④ 牀前月光を見る

疑ふらくは是れ地上の霜かと  
頭を挙げて山月を望み  
頭を低れて故郷を思ふ

牀前看ル月光  
疑フラクハ是れ地上ノ霜カト  
拳レゲテ頭ヲ望ニミ山月ヲ  
低レレテ頭ヲ思ニフ故郷ヲ

# 12 漢詩 漢詩の形式を知る

組
番号
氏名

1 次の漢詩を読んで、問いに答えなさい。

静夜思

李白

牀前看月光

牀前月光を看る

疑是地上霜

疑うらくは是れ地上の霜かと

舉頭望山月

頭を挙げて山月を望み

低頭思故郷

頭を低れて故郷を思ふ

① この詩のように全体が四行から成る詩を何といますか。次の中から選んで答えなさい。

絶句

自由詩

定型詩

絶句

律詩

② この詩の形式を次の中から選んで答えなさい。  
**調** 八行から成る詩はなんというか、調べてみよう。

五言絶句

七言絶句

五言律詩

七言律詩

**調** 一行が五字のものは五言、七字のものは七言。

五言絶句

③ このような詩で第一句から第四句までを別にそれぞれ何とよいか答えなさい。

一

起句

二

承句

三

転句

四

結句

④ この詩の第三句と第四句に用いられている表現技法を答えなさい。

対句（法）

# 12 漢詩 漢詩の形式を知る

組	
番号	
氏名	

1 次の漢詩を読んで、問いに答えなさい。

送友人 李白 友人を送る

青山横北郭に横たわり

白水遶東城を遶る

此地一たび別れをなし

孤蓬万里に征く

浮雲游子の意

落日故人の情

手を揮つてここより去れば

蕭蕭として班馬鳴く

① この詩の形式を答えなさい。  
五言律詩

② この詩で押韻している漢字をすべて抜き出しなさい。

城、征、情、鳴

注 「押韻」とは、音のリズムを得るために、漢詩の一定の場所に同一または類似の音声をもち漢字を用いること。

③ この詩の□のまとまりを何といいますか。次の中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 起句  
首聯

イ 承句  
頷聯

ウ 転句  
頸聯

エ 結句  
尾聯

オ

**注** 律詩の第一・第二の両句を首聯、第三・第四の両句を頷聯、第五・第六の両句を頸聯、第七・第八の両句を尾聯という。

④ この詩の中の□〜□の中で、対句になっているものをすべて答えなさい。

□  
□

# 13 漢字の読み書き

組	
番号	
氏名	

1

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

- ① 大臣は曖昧な発言に終始した ( あいまい )
- ② 緊張のために萎縮したようだ ( いしゆく )
- ③ 憂鬱な一日だった ( ゆううつ )
- ④ 怨恨による犯行の可能性が高い ( えんこん )
- ⑤ 俺に任せておけ ( おれ )
- ⑥ 俳諧の歴史をたどる ( はいかい )
- ⑦ 心の葛藤 ( かっとう )
- ⑧ 犬は嗅覚が発達している ( きゅうかく )
- ⑨ 日光東照宮へ参詣する ( さんけい )
- ⑩ 厳しい稽古で鍛えた ( けいこ )
- ⑪ 拳を突き上げる ( こぶし )
- ⑫ 慈悲を乞う ( こ )
- ⑬ 将棋の駒を作る職人 ( こま )
- ⑭ ご無沙汰しております ( ぶさた )
- ⑮ 真摯な姿勢で取り組む ( しんし )

**注意** 真面目、誠実。

**注** 心の中に相反する方向の欲求や考えがあつてその選択に迷う状態のこと。



次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

① 呪文を唱える (じゅもん)

② ついに憧れの地にたどり着いた (あこが)

③ 尻もちをついてしまった (しり)

④ この項目の記入は必須だ (ひつす)

⑤ 脊椎動物について調査する (せきつい)  
**意** 必ずなくてはならないこと。

⑥ かなり痩せている (や)

⑦ 乱暴な振る舞いに眉をひそめる (まゆ)

⑧ 肘の痛みが激しい (ひじ)

⑨ ポップコーンを頬ばる (ほお)

⑩ 冥土の土産 (めいど)

**意** 「冥土」とは死者の靈魂が迷い行く道。  
 (仏教用語)

⑪ あまりのおごさに戦慄を覚える (せんりつ)

⑫ 光の粒子 (りゅうし)

⑬ 出家して僧侶となる (そうりよ)

⑭ 食糧問題について話し合う (しょくりょう)

⑮ 清廉潔白な政治家 (せいれんけっぱく)

**意** 心が清く私利私欲をもたないこと。

# 13 漢字の読み書き

組	
番号	
氏名	

1

次の傍線部分の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。

- ① 調査委員会に諮<sup>ら</sup>る (はか)
- ② 商品を卸<sup>す</sup> (おろ)
- ③ 口を挟<sup>む</sup> (はさ)
- ④ 残虐な王のしわざ (ざんぎやく)
- ⑤ 起伏<sup>が</sup>激しい (きふく)
- ⑥ 宵<sup>や</sup>みやみが迫る (よい)
- ⑦ つぼみが膨<sup>ら</sup>む (ふく)
- ⑧ 友を欺<sup>く</sup> (あざむ)
- ⑨ 目的を完遂<sup>す</sup>る (かんすい)
- ⑩ 人権を擁護<sup>す</sup>る (ようご)
- ⑪ 業務を委託<sup>す</sup>る (いたく)
- ⑫ 士気を鼓舞<sup>す</sup>る (こぶ)
- ⑬ 作品を募<sup>る</sup> (つもの)
- ⑭ 期待と不安が交錯<sup>す</sup>る (こうさく)
- ⑮ 信念を貫<sup>く</sup> (つらぬ)

**意** 相談する。

**意** 商品を問屋が小売業に売り渡すこと。

**意** 人が話している途中で、話に割り込むこと。(慣用句)

**意** 人に頼んで代わりにしてもらうこと。

**意** 人の気をふるい起こさせること。

次の傍線部分のひらがなを漢字で書きなさい。

- ① かれいな人生を送った一族 (華麗)
- ② きよせいを張る (虚勢)
- ③ やわらかい表情 (柔)
- ④ 本こをいつわる (偽)
- ⑤ かたい金属でできている (硬)
- ⑥ 来ねんこそくつじょくをはらす (屈辱)
- ⑦ キんモクセイがほうこうを放つ (芳香)
- ⑧ 軽はずみな言動をつつしお (慎)
- ⑨ 経験がとぼしい (乏)
- ⑩ しさを与えられる (示唆)
- ⑪ 安易なだきようを許さない (妥協)
- ⑫ 注いをうながす (促)
- ⑬ 人工衛星がきどうに乗る (軌道)
- ⑭ 古都の秋をまんきつする (満喫)
- ⑮ 健かしんだん (診断)

⑪ 意 **それとなく気づかせること。**  
 ⑫ 意 **対立している双方が折れ合って一致点を見出して事をまとめること。**

# 14 立場を決めて意見を書こう

組			
番号			
氏名			

学級活動の時間に、「ボランティア活動」についての話し合いをしました。その中で、次のような意見が出されましたが、あなたはどうか考えますか。あなたの体験を振り返り、次のA、Bどちらかの立場を選び、あとの《注意》にしたがって意見を書きなさい。

- A ボランティア活動は、相手のためにするべきである。  
B ボランティア活動は、自分のためにするべきである。

## 《注意》

- ◇ 選んだ立場をAかBか明確にすること。(A、Bのどちらの立場を選択しても、そのこと自体は採点に関係ありません。)
- ◇ 「題名」は書かなくともよい。 ◇ ニ〇〇字以上、二五〇字以内で書くこと。

## 解答例

ボランティア活動は自分のために参加するべきだと私は思う。立志記念行事で老人ホームの介護ボランティアに参加した体験からそう思う。はじめ私は「お年寄りのために」という気持ちで参加したのだが、人と人とのふれあいがいかに大切かということを紹介体験を通して学んだのである。

つまり、「相手のために」と思って参加しても、自分自身の心を豊かにしたり広くしたりすることにつながっているのだ。だから、最初から、「もっとしっかりした自分をつくらう」という目的意識をもって参加するべきだと私は考える。

## 解説

- 1 どの立場を選んだかによって点数が左右されることはないので、自分として書きやすい立場を選ぶようにする。(具体例がはっきり浮かぶほうの立場がよい。)
- 2 まず自分の意見や考えを一〜二行で書く。次になぜそう考えるのかについて、具体的な例を示して説明するようにする。
- 3 最後にまとめとして、自分の意見や考えをもう一度示すようにする。(字数にゆとりがないときには無理をしないでよい。)
- 4 いきなり書かずに、どんなことを書くか問題用紙にメモ(箇条書など)してみて、書けそうな手ごたえを感じてから書くようにする。

# 15 説明的文章2 全体と部分との関係

組			
番号			
氏名			

1 次の文章を読んで問いに答えなさい。

夕なぎというのは昼間の海風から夜間の陸風に移り変わる中間に、一時無風の状態を経過する、その時をさして言うのである。従って夕なぎが完全に行われるためには、低気圧による風や、また季節風のごときが邪魔をしない事が必要条件である。

夏期瀬戸内海地方で特に夕なぎが著しいのはどういうわけかと思つて調べてみると、瀬戸内海では、元来どこでもいったいに強くない夏の季節風が、地勢の影響のために特に弱められている。そのため海陸風が最も純粋に発達する。従つて風の変わり目の無風が著しく現われるのである。夕なぎに対して、朝なぎもあるが、特に夕なぎの有名なのはそれが気温の高い時刻であるがためであらう。

夕なぎの継続時間の長短はいろいろな事情にもよるが海岸からの距離がおもな因子になる。すなわち海岸から遠くなるほど夕なぎが長くなるわけである。

東京では、夏の暑い盛りに天気の良い日だと夕方涼しい南がかった風が吹くので、瀬戸内海地方のような夕なぎの苦しみを免れている。八月ごろの東京の風の一日じゅうの変化を調べてみると、やはり海陸風に相当する規則正しい風の周期的変化があるが、ただ東京では日々変化の位相が著しくくずれているのと、夏期の南東の季節風がかなりよく発達しているために、夕なぎに相当する時刻にはこの季節風のほうが著しく現われて来るのである。

いったい地球の霧囲気が太陽のために周期的にあたためられるために霧囲気全体の振動が起こり、それが一面には気圧の周期的変化となり、また一面には地球上至るところの風の周期的変化として現われるはずである。たとえば地球が全部大洋かあるいは陸地におおわれているたらこういう原因から起こる一日じゅうの弛張が純粋に現われるかもしれないが、日本の沿岸のような所では地方的な海陸風に相当するものが、各季節を通じてあまりに著しく発達して、上のような地球に関するものがほとんど全くおおい隠されているように見える。

(寺田寅彦「海陸風と夕なぎ」から)

① 「朝なぎ」とありますが、「朝なぎ」とはどのようなときのことを言うのか、「夕なぎ」の説明にならって六十字程度で説明しなさい。

朝なぎというのは夜間の陸風から昼間の海風に移り変わる中間に、一時無風の状態を経過する、その時をさして言うのである。

② 夕なぎの苦しみとありますが、これはどのようなことを意味していますか。本文中の言葉を用いて簡潔に説明しなさい。

夏の暑い盛りの方方に、風がなくなること。

**注** 「どのようなことか」という問いに対しては、「〜こと」と答えよう。

① 「夕なぎ」と「季節風」に関して、瀬戸内海地方と東京にはどのような違いがありますか。原稿用紙の書き方に従って、百八十字以上、二百字以内で説明しなさい。

瀬戸内海では、元来強くない夏の季節風が	地勢のため特に弱められているので、海陸	風が最も純粋に発達する。従って風の変わり	目の無風状態の夕なぎが著しく現れる。	東京でも海陸風に相当する規則正しい風の	周季的变化があるが、ただ東京では日々変化	の位相が著しくずれているのと、夏期の南東	の季節風がかなりよくなるため、	夕なぎに相当する時刻にはこの季節風のほう	が著しく現れて夕なぎは起きない。
---------------------	---------------------	----------------------	--------------------	---------------------	----------------------	----------------------	-----------------	----------------------	------------------

# 16 詩2 比喻表現を読み取る

組	
番号	
氏名	

1 次の詩を読んで問いに答えなさい。

レモン哀歌

高村光太郎

そんなにもあなたはレモンを待つてみた  
かなしく白くあかるい死の床で  
わたしの手からとつた一つのレモンを  
あなたのきれいな歯が<sup>①</sup>がりりと噛んだ  
トパアズいろの香気<sup>②</sup>が立つ  
その数滴の天のものなるレモンの汁は  
ぱつとあなたの意識を正常にした  
あなたの青く澄んだ眼がかすかに笑ふ  
わたしの手を握るあなたの力の健康さよ  
あなたの<sup>③</sup>咽喉<sup>のど</sup>に嵐はあるが  
かういふ命の瀬戸ぎはに  
智恵子はもとの智恵子となり  
生涯の愛を一瞬にかたむけた  
それからひと時  
昔山巔<sup>さんてん</sup>でしたやうな深呼吸を一つして  
あなたの<sup>④</sup>機関はそれなり止まった  
写真の前に挿した桜の花かげに  
すずしく光るレモンを今日も置かう

※トパアズ：黄玉石。

※山巔<sup>さんてん</sup>：山頂。

① がりりととありますが、このような言葉を何といいますか。あとから選んで答えなさい。

擬態語

擬音語

擬人法

擬音語

注 「がりり」はレモンをかじったときの音をたとえた言葉。

② 咽喉のどに嵐はあるとありますが、これは「あなた」のどのような状況を表していますか。簡潔に説明しなさい。

(例) 息が苦しく、ぜいぜいとあえいでいる様子。

③ 機関はそれなり止まったとありますが、これは「あなた」のどのような状況を表していますか。簡潔に説明しなさい。

(例) あなたが死んでしまったということ。



# 16 詩2 比喩表現を読み取る

組	
番号	
氏名	

1 次の詩を読んで問いに答えなさい。

蟻ありと空と僕の骨

生徒作品

ありんこには ①骨がなくて  
人間には ②骨がある

③僕には骨がなくて  
ありんこには ④骨がある

空から見えた 僕と蟻

あの歪んだ水平線が僕なら  
蟻は一ミリもブレずに瞳に飛び込む

千ヘクトパスカルでへこたれる僕  
⑤自分の何倍もある夢をかつぐ蟻

僕には ⑥骨がなくて  
ありんこにこそ ⑦骨がある

(仙台中学校教育研究会国語部会編『こだま』第54号所収)

① ア僕には骨がなくてとありますが、この部分の「骨」と同じ意味で使われている「骨」を、①〜⑤から探して答えなさい。(一つとは限りません。)

③、④、⑤

② ア僕には骨がなくて の「骨」は何を表していますか。簡潔に答えなさい。

(例) 強い意志

③ イ自分の何倍もある夢とありますが、これは何を表していると思いますか。想像して簡潔に答えなさい。

(例) 自分の体の何倍もある食べ物 (を) かついでいること)

**注** 「イ」のように(な)「イ」という言葉を用いてたとえる比喩表現を直喩という。

**調** 直喩に対して、「の」の詩の「僕には骨がなくて」「の」の「骨」のように、「イ」のように(な)「イ」という言葉を用いずにたとえる表現をなんとというか、調べてみよう。

# 17 紹介する文章を書こう

組	
番号	
氏名	

1 アメリカから初めて日本に来たA・L・Tのスマスさんに、日本の季節の行事や風習を紹介する文章を書くことにしました。次にあげるものの中からあなたが紹介したいもの一つ選んで、注意に従って書きなさい。

- |    |    |     |     |
|----|----|-----|-----|
| 花見 | 祭り | 豆まき | お年玉 |
|----|----|-----|-----|

〔注意〕

- (1) 選んだ行事又は風習について、自分の体験（見たこと聞いたことなども含む）をふまえて書くこと。
- (2) 文章は百九十五字以上、二百二十五字以内で書くこと。

解答例

選んだもの

花見

春が近づくと、日本人は、ある花が咲くのをとても楽しみに待つようになります。テレビのニュースでも、花が咲く様子を紹介することが多くなります。ではスマスさん、その花は何の花か想像してみてください。

それは桜の花です。日本人は桜の花を眺めながら、みんなでごちそうを食べたり、歌を歌ったりするのが大好きです。実は、私の家族も、毎年、桜並木で有名なある公園に出かけて花見をします。よかったら、スマスさんも来年いっしょに行きませんか。

解説

- 1 どの立場を選んだかによって点数が左右されることはないので、自分として書きやすい立場を選ぶようにする。（具体例がはっきり浮かぶほうの立場がよい。）
- 2 まず自分の意見や考えを一〜二行で書く。次になぜそう考えるのかについて、具体的な例を示して説明するようにする。
- 3 最後にまとめとして、自分の意見や考えをもう一度示すようにする。（字数にゆとりがないときには無理をしないでよい。）
- 4 いきなり書かずに、どんなことを書くか問題用紙にメモ（箇条書など）してみて、書けそうな手ごたえを感じてから書くようにする。

# 18 古文2 古文のリズムに親しむ

組			
番号			
氏名			

歴史的仮名遣いや言葉の句切り、声の大きさ、間の取り方などに注意しながら、次の文章を繰り返し音読しましょう。

今井の四郎、木曾殿、主従二騎になつて宣ひけるは、「日ごろはなにともおぼえぬ鎧が今日は重うはなつたるぞや」。今井四郎申しけるは、「御身もいまだつかれさせ給はず。御馬もよわり候はず。なにによつてか、一両の御着背長を重うはおぼしめし候べき。それは御方に御勢が候はねば、臆病でこそさはおぼしめし候へ。兼平一人候とも、余の武者千騎とおぼしめせ。矢七つ八つ候へば、しばらくふせぎ矢仕らん。あれに見え候、粟津の松原と申す、あの松の中で御自害候へ」とて、うツてゆく程に、又あら手の武者五十騎ばかり出できたり。「君はあの松原へいらせ給へ。兼平は此敵ふせぎ候はん」と申しければ、

## 〔現代語訳〕

今井四郎と木曾殿と主従二騎になつて、木曾殿が言われるには、「これまでは何とも感じなかった鎧が今日は重くなつたぞ」。今井四郎申すには、「お体もまだお疲れになつておられません。御馬も弱つておりません。どうして一領の着背長を重く思われるはずがありません。それは味方に軍勢があります。それは臆病からそうは思われませんか。兼平一人ではございませぬ。矢が七、八本ございますので、しばらく防ぎ矢をいたしましょう。あそこに見えますのを粟津の松原と申しますが、あの松の中で御自害なさいませ。」と言って、馬を急がせていくうちに、また、新手の武者が五十騎ほど出てきた。「殿はあの松原にお入り

木曾殿宣ひけるは、「義仲都にていかにもなるべかりつるが、これまのがれくるは、汝と一所で死なんと思ふ為なり。所々でうたれんよりも、一所でこそ打死をもせめ」とて、馬の鼻をならべてかけおとし給へば、今井四郎馬よりとびおり、主の馬の口にとりついて申しけるは、「弓矢とりは年来日來いかなる高名候へども、最後の時不覺しつれば、ながき疵にて候なり。御身はつかれさせ給ひて候。つづく勢は候はず。敵におしへだてられ、いふかひなき人の郎等にくみおとされさせ給ひて、うたれさせ給ひなば、『さばかり日本国にきこえさせ給ひつる木曾殿をば、それがしの郎等のうち奉ったる』などと申さん事こそ口惜しう候へ。ただあの松原へいらせ給へ」と申しければ、木曾、「さらば」とて、粟津の松原へぞかけ給ふ。

(『平家物語』巻第九「木曾最期」より)

**注** 歴史的仮名遣いに注意しよう。

「よろひ」「ヨロイ」「今日」「キョウ」「給はず」「タマワズ」「候へ」「ソウラエ」

「思ふ」「オモウ」「かけむ」「カケン」「高名」「コウミョウ」「口惜しう」「クチオシユウ」

ください。兼平はこの敵を防ぎましょう」と申したところ、木曾殿が言われるには、「義仲は都で最後の合戦をするべきだったのが、ここまで逃げて来たのは、お前と同じところで死のうと思つたためである。別々のところで討たれるよりも同じ所で討死にもしよう」と言つて、馬の口を並べて駆けようとなさると、今井四郎は馬から飛び降り、主君の馬の口にとりついて申すには、「弓矢取りは常日頃、どんな功名がありましたも、最期の時に不覺をすると、長い間の疵となるものです。お体はお疲れになっています。あとに続く味方はありません。敵に間を押し隔てられ、つまらぬ人の家来に組み落とされて、お討たれになったら、『あれほど日本国にその名が聞こえておられた木曾殿を、誰その家来がお討ち申した』などと人が申すのが残念です。ただ、あの松原にお入りください。」と申したので、木曾は、「それならば」と言つて、粟津の松原へ馬を走らせて行かれる。

# 18 古文2 内容を理解する

組			
番号			
氏名			

1 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

〔平成十六年 宮城県公立高校入試問題〕

今日は、その事をなさんと思へど、<sup>①</sup>あらぬ急ぎ先づ出で来て、まぎれ暮らし、待つ人は障り有りて、<sup>②</sup>頼めぬ人は来たり、頼みたる方のことは違ひて、思ひよらぬ道ばかりかなひぬ。わづらはしかりつる事はことなくて、やすかるべき事はいと心苦し。日々に過ぎ行くさま、かねて思ひつるには似ず。一年の中にもかくの如し。<sup>③</sup>一生の間も又しかなり。

（「徒然草」による）

① 右の文章中に「<sup>①</sup>あらぬ急ぎ」とありますが、その意味として、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 思いがけない急用
- イ 次々と生じる急用
- ウ 憂うつになる急用
- エ とても大切な急用

ア

② 右の文章中に「<sup>②</sup>頼めぬ人」とありますが、これと反対の意味を表している言葉を、文章中からそのまま抜き出して答えなさい。

待つ人

③ 右の文章中に「<sup>③</sup>一生の間も又しかなり。」とありますが、その内容を説明したものととして、最も適切なものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 人生では、以前から願っていたことが、なにげないきっかけで成し遂げられるものである。
- イ 人生では、自分が考えているのとは違った形で、物事が進行してしまいがちなものである。
- ウ 人生では、簡単に思える物事が、面倒でやっかいな事態になってしまいがちなものである。
- エ 人生では、幸運と災いとが常に互い違いに現れ、人々を一喜一憂させてしまうものである。

イ

【注】「又しかなり」⇨また同じようなものである。

# 19 漢文2 内容を理解する

組			
番号			
氏名			

1 次の漢文の書き下し文とその現代語訳を読んで、問いに答えなさい。

①子曰はく、譬えば山を為るが如し。未だ一簣を成さざるも、止むは吾が止む也。譬えば地を平かにするが        。一簣を覆うと雖も、進むは吾が往く也。

## 【現代語訳】

孔子が言うには、「たとえば山を作るようなものである。まだ一もっこも積み上げてはいないとところで止めてしまうのも、（それを）止めた（あきらめた）のは自分が止めた（あきらめた）のである。たとえば土地をならすようなものである。（その完成まではほど遠く）はじめの一もっこをあけたただけだとしても、その進歩は自分が始めたものである。」

※もっこ…：なわを網状に編んで、土などを運ぶ道具。

① 子とありますが、これは誰のことを指していますか。

孔子

② 漢文中の          にあてはまる言葉を、文中から探して、二字で答えなさい。

如し

③ 止むは吾が止む也 の意味を答えなさい。

（例）あきらめた（止めた）のは自分のせいである。

④ この文章では自分の行動についてどのようなことが述べられていま  
すか。次の中から最も適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

ア 止めるのも進むのも自分の勝手であるから、他人がとやかく言う  
ことではない。

イ 止めるのも進むのも自分の責任であり、人ごとではない。

ウ 止めるにしても進むにしても、周囲の手助けがあった方がよい。

イ



# 19 漢文2 内容を理解する

組	
番号	
氏名	

1 次の文章を読んで、問いに答えなさい。

〔平成十五年 宮城県公立高校入試問題〕

宋人<sup>そうひと</sup>に、其<sup>そ</sup>の苗<sup>な</sup>の長<sup>なが</sup>ぜざるを閑<sup>うれ</sup>ひて、①之<sup>これ</sup>をぬく者<sup>もの</sup>有り。芒芒然<sup>ぼうぼうぜん</sup>として  
 歸<sup>かへ</sup>り、其<sup>そ</sup>の<sup>に</sup>人<sup>ひと</sup>に謂<sup>い</sup>ひて曰<sup>いは</sup>はく、今日<sup>けふ</sup>は病<sup>つか</sup>れたり。苗<sup>な</sup>を助<sup>たす</sup>けて長<sup>なが</sup>ぜしむと。  
 ②其<sup>そ</sup>の子<sup>こ</sup>趨<sup>はし</sup>りて往<sup>ゆ</sup>きて之<sup>これ</sup>を視<sup>み</sup>れば、苗<sup>な</sup>は則<sup>すなは</sup>ち槁<sup>か</sup>れたり。

（「孟子<sup>もうし</sup>」による）

※閑<sup>うれ</sup>ひて…心配して。

之<sup>これ</sup>をぬく…苗<sup>な</sup>のしんを引きのばす

芒芒然<sup>ぼうぼうぜん</sup>として…疲れきって

① 右の文章中から、「①之<sup>これ</sup>をぬく者」の発言にあたる箇所を抜き出し、  
 はじめと終わりを、それぞれ三字で書きなさい。（句読点を含む。）

今日は

ぜしむ

【注】会話文の書き表し方の特徴を覚えよう。

「〜が言うには、・・・と。」のように、**会話文の直後には助詞「と」が続くことが多い。**

② 右の文章中に「②其<sup>そ</sup>の子<sup>こ</sup>趨<sup>はし</sup>りて往<sup>ゆ</sup>きて」とありますが、このときの  
 「其の子」の気持ちを表す言葉として最も適切なものを、次のア〜エ  
 から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 歓喜                    イ 不安                    ウ 興味                    エ 落胆
- イ

③ 右の文章から、「助長」という言葉が生まれました。「助長」の意味  
 として、本文の内容に最も近いものを次のア〜エから一つ選び、記号  
 で答えなさい。

- ア ある物事の勢いを回復しようと、手助けをしてよくすること。  
 イ ある物事の発達を促すために、家族の者が手助けをすること。  
 ウ ある物事の成長を速めようとして、力を添えだめにする事。  
 エ ある物事の達成をめざして、若者が年長者に助言をすること。

ウ

【調】「助長」は故事成語（中国の古い伝説や出来事をもとにしてできた言葉）。故事成語について  
 ては、一年生の学習を振り返ろう。

# 20 文法のまとめ

## 助動詞の意味・用法

組	
番号	
氏名	

次の「助動詞の活用表」の空欄に当てはまる活用語尾を書き、表を完成させましよう。

語形不変形				特殊活用形			形容動詞型				形容詞型			動詞型					活用型				
まい	だろ	よう	う	ぬ(ん)	た	ます	です	だ	そうだ	そうだ	ようだ	たい	らしい	ない	たがる	させる	せる	られる	れる	基本形			
					た	ませ	でしょ	だろ		そうだ	ようだ	たか		なか	たが	させ	せ	られ	れ	未然形	ウナイ		
						まし	でし	だ	そう	そう	よう	たか	らし	なか	たが	させ	せ	られ	れ	連用形	マス		
				ず			で	だ	そう	そう	よう	たか	らし	なか	たが	させ	せ	られ	れ	終止形	言い切る		
まい	だろ	よう	う	ぬ(ん)	た	ます	です	だ	そうだ	そうだ	ようだ	たい	らしい	ない	たがる	させる	せる	られる	れる	連体形	トキ		
					た	ます	です	(な)		そう	よう	たい	らしい	ない	たがる	させる	せる	られる	れる	仮定形	バ		
					た	ます	です	なら		そう	よう	たけ	(らし)	なけ	たが	させ	せ	られ	れ	命令形	命令で		
						まし	ませ									させ	せよ	られ	れよ	言い切る			
打消の推量	推量の意	推量	意志	打消	存続	完了	過去	丁寧	丁寧な断定	断定	伝聞	様態	たとえ	希望	推定	打消	希望	使役	尊敬	可能	自発	受身	意味

注 「推量」と「推定」の違い  
 ・「推量」↓単に「たぶん・・・だろう」の意味。  
 ・「推定」↓はっきり確認したわけではないが、何かの根拠(理由)があって「おそらく・・・らしい」という意味。

組	20	文法のまとめ	助動詞の意味・用法
番号			
氏名			

① 次の①～⑧の――線部と同じ意味・用法のものを、後から一つずつ  
選ぶ「――」に記号を書きなさい。

① 妻は花粉症に悩まされつづけていました。

ア 春はゆっくりと南風に運ばれてきます。

イ 先生はにっこりと笑われました。

ウ 自分の失敗がたいへん悔やまれます。

エ 私はうれしくて眠れませんでした。

「ア」

② 海の汚染が進むと、自然の恵みを受けられなくなります。

ア 先生が家庭訪問に来られました。

イ 私は好き嫌いがないので、何でも食べられます。

ウ 仕事を手伝って、父にほめられました。

エ 秋の気配がなんとなく感じられます。

「イ」

③ こちらの作戦をよまれた。

ア 和解の交渉はこじれた。

イ とても楽観的な気分にはなれない。

ウ おとりに意識が縛られたのだ。

エ 話し合いの申し入れはない。

「ウ」

④ なんだかんだと争いが絶えない。

ア 話を聞く必要はない。

イ 今日は忙しくない。

ウ 宇宙は果てしない。

エ 明日は雨が降らない。

「エ」

⑤ 霧の中に浮かぶヨットのよう**に**ぼんやりと輪郭を失っていた。

ア 早く泳げるよう**に**なりたい。

イ 毎日必ず泳ぐよう**に**する。

ウ どうか泳ぎが上達しますよう**に**。

エ 水面を滑るよう**に**泳いだ。

「エ」

⑥ 卒業生はみんな幸福**そう**だった。

ア 彼は外国に留学する**そう**だ。

イ 友達はみんな泣き**そう**だ。

ウ **そう**だ、写真を撮ろう。

エ 明日は、雨になる**そう**だ。

「イ」

⑦ 雪の降る朝は静**か**だ。

ア もうすっかり春**だ**。

イ 旅行の準備が済**ん**だ。

ウ 明日の夜は晴**れ**そう**だ**。

エ 彼はいつでもさわやか**だ**。

「エ」

⑧ 母親かだれかからもらったので**あ**ろう。

ア 急いで引き返しまし**よ**う。

イ 今頃、さぞつら**か**ろう**と**思います。

ウ ぼく**ら**も一緒に行**こ**う**と**決心した。

エ さあ行**こ**う、元**気**だ**し**て。

「イ」

**注** 「れる・られる」の意味・用法四種類「受け身」「可能」「尊敬」「自発」のうち、「自発」は「自然とそうなる」の意味にあたるもの。  
**例** 「」の写真を**見**ると、若いころの自分が思い出**さ**れる。「」

## 21 構成に気をつけて書こう

組	
番号	
氏名	

- 1 「私たちは、遊びの中からいろいろなことを学んでいる。」と言われています。あなたが遊びの中から学んだことを次の〈注意〉にしたがって書きなさい。

〈注意〉

- 1 文章は二段落構成とする。前の段落には、あなたが「遊びの中から学んだこと」について、具体的に書くこと。段落には、「その学んだことが、他の場面でどのように生かされたか」について書くこと。
- 2 題名と氏名は書かず、原稿用紙の正しい使い方にしたが、九行（注・一行20字詰め）で書くこと。

● 構成に気をつけて書く

### 解答例

中学校で僕たちは、よく昼休みにサッカーをして遊んだ。クラスの男子だけでは人数が足りないので、他のクラスの友達にも入ってもらった。僕たちはそこで、クラスという枠を越えて遊び、協力し合うことを学んだ。

この経験は、学年全体で取り組んだ文化祭の壁画制作でも生かされた。塗り終わらなかったあるクラスを、他のクラスが助けたのだ。お互いに協力し合うことは大切だと思う。

### 解説

指示された段落数にしたがって文章を書く場合、すぐに原稿用紙に書かずに、以下のようなポイントに注意して簡単なメモをとってから書くことが大切である。

- 1 指示に合った構成メモを作る。

(例) 題名 自然を守る

第一段落 体験したことなど (具体例)

第二段落 自分の考え (意見)

- 2 与えられた題名に対し、どのような体験・見聞したこと (具体例) が思い浮かぶか、いくつか書き出す。

- 3 その具体例の中から、いちばん書きやすいもの一つを選ぶ。

- 4 その具体例からどのような自分の考えを持ったか簡単にメモする。

- 5 段落と段落をどうつなぐか、つなぎの言葉を考える。

(例) 「このことから……」

- 6 最後のまとめの文章を考えてから、文章を書き出す。

# 21 文章の推敲

組	
番号	
氏名	

1

町田さんは、六年生の一年間の目標を作文にまとめるために下書きをしました。読み返してみると、書き直した方がよいと思ったところが見つかりました。書き直した方がよいと思った理由と、どのように書き直した方がよいかを説明したものととして、ふさわしいものを1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

※文のはじめにある数字は、その文の番号を示しています。

【書き直した方がよいと思ったところ】

① わたしは、六年生として学校のためになるような仕事や活動に積極的に取り組もうと思った。② しかし、具体的にどんなことをしたらよいのかなやんでしまった。③ そこで、先生に相談すると、  
 「あなたの好きなことが、学校のためにつながるとよいですね。」  
 と、話してくださいだったので、花が好きなどころを生かせばよいと気づいたので、花いっぱいのできれいな学校にしようと思った。

- ②の文には、「だれが」という主語が抜けているから、主語となる「先生」を書き足した方がよい。
- ③の文は、「るので」が続いて長くなり、分かりにくいから、一文を分けて書いた方がよい。
- ③の文の「」の部分には、先生が話した言葉だから、「話してください」まで、「」に入れた方がよい。
- ①から③までの文は、述語が「した」になっているから、「です」や「ます」も使った方がよい。

解	答
2	

**調** どう書き直せば良いかを考えて、右の文章を具体的に書き直してみよう。

※平成20年度全国学力・学習状況調査

小学校6年国語問題より

《正答率》

県	29.7%
全国	33.7%

## 22 計画的な話し合い／小見出しを書く

組			
番号			
氏名			

1 次は、谷川さんの学級で、地域の人たちとの交流会で行う劇の内容について話し合った様子の一部です。傍線部――は、司会者の進め方の良いところですか。どのようなところが良いか説明しましょう。

【話し合いの様子の一部】

谷川	（劇の内容について話し合っている） はい。ぼくたちの町に伝わる昔話がいいと思います。町に伝わる昔話なら、地域のみなさんもぼくたちも楽しめるところからです。 （同じような意見が続く）
花田	わたしは、登場人物の多い話がいいと思います。みんなが登場して、地域のみなさんに顔を覚えてもらいたいからです。 （同じような意見が続く）
司会	今、出されている案は、「町に伝わる昔話」と「登場人物の多い話」です。そのほかにはありませんか。（しばらく時間をおく）なければ、この二つの案のどちらにも合う題材を決めるということで、話し合いを進めてもいいですか。
全員	いいです。 （話し合いが続く）

進め方の良さの説明

（正答例）

- ・ 出された二つの意見を合わせて話し合いを進めていこうとしているところが良い。
- ・ 次に話し合う内容を全員に確かめて話し合いを進めていこうとしているところが良い。

《正答の条件》 次の条件を満たして解答しているもの。

※条件①②のいずれも満たすか、いずれかを満たしているものを正解とする。

- ① 出された意見を整理し、二つの案を生かそうとしていることに触れている。
- ② 次に話し合う内容について確認した上で進めようとしていることに触れている。

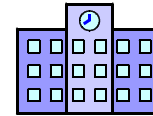
平成21年度全国学力・学習状況調査  
小学校6年国語問題より  
《正答率》  
県 65.2%  
全国 68.0%

宮川さんは、他の学校の人たちに、自分たちの学校を紹介する文章を書きました。ア・イの小見出しのように、ウに入るふさわしい小見出しを書きましょう。

## 菜の花小学校の紹介

### ア 学校ができた年

菜の花小学校は、平成10年4月に開校しました。創立10周年を迎えた学校です。



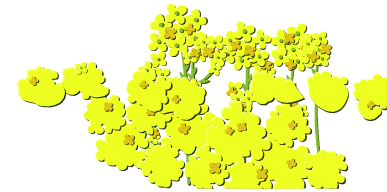
### イ 学校の児童数

菜の花小学校の児童数は、370人です。児童数は毎年少しずつ増えています。

年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
人数(人)	358	363	370

### ウ ( 《正答例》 学校の名前が決まった理由 )

学校ができるときに、地域の人から学校名を募集したところ、いろいろな名前が集まりました。話し合いの結果、学校名は、「菜の花小学校」に決まりました。春になると、学校の周りは、菜の花で黄色いじゅうたんをしきつめたようになるからです。



《正答の条件》

次の条件を満たして書いている。

- ① 学校に関する事
- ② 名前に関する事
- ③ 理由や由来に関する事

※右の正答例のように、条件①②③のいずれも満たして解答しているものに加え、条件①②のいずれも満たすか、または、条件②③のいずれも満たして解答しているものも正答とする。

平成20年度  
全国学力・学習状況調査  
小学校6年国語問題より  
《正答率》

県 78.4%  
全 国 78.7%